

平成29年度丹波の森夢会議 記録

平成30年に県政150年を迎えるにあたり、兵庫の未来と進むべき方向を県民とともに考え、県政の新たなステージを展望する「兵庫2030年の展望」の策定に向けて、県民と意見交換を行う「丹波の森夢会議」を開催しました。

- 1 開催日時 平成29年11月11日（土） 14:00～16:30
- 2 場 所 丹波市氷上住民センター 大会議室（丹波市氷上町成松字甲賀1番地）
- 3 テーマ 「2030年の『丹波の森』 語ろう！ふるさとの未来」
- 4 参加者 102名
- 5 内 容

総合司会：大地由美 丹波地域ビジョン委員会副委員長

（1）開会あいさつ

足立啓一 丹波地域ビジョン委員会委員長



（2）プレゼンテーション「兵庫2030年の展望」について

坂本哲也 兵庫県企画県民部ビジョン局長



（3）知事あいさつ

井戸敏三 兵庫県知事

- ◇ 本日のテーマは「2030年」。
- ◇ 高校生には、自分が30才前後になる頃の未来がどうなるか、自分が将来に向けてこれからどういう選択をしていくかを考えてほしい。
- ◇ 高齢者も、平均寿命が延びており、定年退職後の人生が二十数年あれば、その自由時間の長さは現役時代の就業時間に匹敵するので、退職後の過ごし方が大切になる。
- ◇ 未来を考えるポイントは、仕事と生活のバランス、女性や高齢者・障害者・引きこもりなど現在は主に家庭で過ごしている人々の生産活動への参加、60才以上の自由時間がある人々の社会参加だと考えている。
- ◇ 来年、県政は150周年を迎える。150年前の幕末の志士達は、新しい学問を学んでいた訳ではないが、激変する時代の流れの中で必死に活路を探し求め、時代の変化に対応した。
- ◇ 現代も、人口が増加する時代から減り続ける時代への転換点にある。
- ◇ 人口減少が必ず社会の活力低下を招くとは限らず、対応次第で活力を維持し、人口が減り続けても存続している町の実例が県内にもある。
- ◇ しかしまず、人口を減らさない取組が重要である。自然増のための子育て環境の整備や出生率の向上、平均寿命・健康寿命の延伸。社会増のための転入促進、一度県外に出た若者がUターンするような地域づくりや兵庫の魅力の発信が必要である。



- ◇ 兵庫の魅力とは、まず「五国」の多様性だが、「ものづくり」や農業にも非常に魅力がある。とくに農業は、大都市近郊の地の利を活かして、米作中心から都市住民のニーズに合わせた野菜の栽培、ブランド化などにより発展が期待できる。また、国内外の観光客の呼び込みによる交流人口の拡大、人づくり、子育て・介護・健康対策・災害対策等の安全安心の向上により、兵庫の魅力を高めていきたい。
- ◇ 県政 150 周年記念事業として、高校生には兵庫の未来について考えてもらう企画を、小学生は作文・図画コンクール、中学生は漫画で「ひょうごの歴史」を学ぶこととしている。また、一般には「県民連携事業」を募集しているので、皆さんのアイデアをいただきながら、来年の県政 150 周年を迎えたい。

(4) グループディスカッション

アドバイザー：横山宜致 丹波地域ビジョン委員会専門委員
小橋昭彦 丹波地域ビジョン委員会専門委員

(5) グループ発表

A [発表者] 柏原高校 竹内乃亜さん、
氷上高校 舟川佳希さん

- ◇ 人口減少対策について、若者が就職できる職種が製造業や公務員くらいで少ないために都会に出てしまう。地域には魅力もあるので、職種が増えれば地元にとどまる若者も増えるのではないかな。
- ◇ 少子高齢化対策について、高齢者が引退するのではなく活躍できるようにすればよい。それには、移動しやすい環境や、高齢者が楽しめる場づくりが必要。
- ◇ コミュニティの復活について、高齢者が同好会活動などでヨコのつながりをつくると良いのではないかな。



B [発表者] 氷上西高校 西山直樹さん

- ◇ 子育てについて、保育士は仕事が大変なのに収入が少ない。働きながら子育てがしやすいように、保育士の働く環境の整備も必要。
- ◇ 地域外への流出について、結婚が契機になることがある。他の地域よりも丹波地域で働いて暮らしたいと思うような仕事があればよい。



C

[発表者] 柏原高校 丹生もなみさん、
氷上高校 藤本実優さん

- ◇ 人工知能が発達すると、製造の仕事は取って代わられる。農業や介護では、大変な部分を機械に任せたい。人間は、地域の未来を考えるような仕事をしたい。
- ◇ いじめをなくすためには、人間関係を深めることが大切。あいさつ運動などで、周囲との人間関係を深めていきたい。
- ◇ 認知症対策として、高齢者が生きがいを感じる事が重要。健康で長生きするためにも、人とのつながりが大切。



D

[発表者] 丹波地域ビジョン委員会 田辺由記子委員

- ◇ 教育について、これから伸びていく分野の勉強ができる場所が近隣にあると良い。奨学金は、社会に貢献する場合は返済が免除になればよい。
- ◇ 農業が収入につながるような、売れる環境づくりや農業のシステム化が必要。
- ◇ 交通について、路面電車、自転車のために道幅を広げるなど、利便性を向上してほしい。
- ◇ 高齢化について、70代、80代はもはや「高齢者」と呼べないのでは。社会保険や補助に頼れる時代ではなくなるので、高齢者自身が健康などに気を付けることも必要。
- ◇ 食べることは重要。地域の良いものが食べられたり、入手できるような店が増えるとよい。
- ◇ インターネットで何でも調べられるが、きちんとした科学的な裏付がある知識を身につけることが必要。
- ◇ 高齢者が家にこもらずに、一人暮らしでも外出を楽しめるような、シニア向けレストランのような場所があるとよい。
- ◇ 高齢者の知恵や知識が社会に活かされることが大切。



E [発表者]篠山産業高校 柴田優駿さん

- ◇ 若者の農業離れが目立っている。小さい頃から農業に関われるようなイベントや、身近なところで栽培の指導や道具の貸出などがあるとよい。
- ◇ 若者の減少対策では、医療、子育て、保育などの公共サービスの充実が必要
- ◇ 地元企業の魅力を知るためには、小学生の頃から地元企業を身近に感じられるイベントや、トライやるウィーク、インターンシップなどで地元企業が密接な存在になることが重要。



F [発表者]丹波地域ビジョン委員会 山本浩之委員

- ◇ 農業の未来について、収入アップ、特色ある農産物の栽培、担い手確保、耕作放棄地の解消などが理想像として挙げられる。
- ◇ 新規就農者が集落に入っていくために、希望者と集落を結びつける仲介組織が必要。
- ◇ 若者ばかりでなく、定年退職者を引き込むことも重要。
- ◇ 農業+αで、儲かる仕組みづくりが大切。
- ◇ 集落単位でコンサルティングするような組織や強力な旗振役が必要。
- ◇ 新規就農者が成功すれば、続いて人が入ってくる。



G [発表者]荻野隆太郎さん

- ◇ 健康で生きがいのある暮らしが理想。
- ◇ 自然を大切にしたい。
- ◇ コミュニティづくりが大切。
- ◇ 人口減少対策では、働きやすい環境を整え、若者が住みやすくすることが重要。
- ◇ 観光振興については、丹波地域の自然を活かしたい。また、空き家をリフォームして、都市住民に貸したり、災害時の避難用などに活用してはどうか。
- ◇ 農業については、稲作中心から畑作への転換が必要。
- ◇ 女性の社会参画をさらに推進すべき。
- ◇ 地域外との交流拡大には、Iターン者の意見を聞いて活かすことが必要。
- ◇ コンパクトシティ



H [発表者]篠山産業高校 矢芝将士さん

- ◇ 高校生が申請・許可がなくてもアルバイトできるようにしてはどうか。お金を稼ぐことが目的ではなく、学校で知識を学ぶことと並んで、大人に混じって働く経験をすることで、社会に出たときに本当に役立つことが学べると思う。
- ◇ 高校生が、地域の野菜をネット販売するサイトの運営などで起業し、それを大人や地域が支援するような取組をしてはどうか。



(6) 講評

石川憲幸 兵庫県議会議員

- ◇ 月の半分を神戸で過ごしており、丹波地域と神戸の両方を見ていて感じるのは、それぞれ良いところがあるのに、悪いことばかりに目が向きがちということである。丹波地域の若者は都会に出て行ってしまいが、都会にも住みにくい面があり、ゆったりと人間らしく自然の中で暮らしたいと思っている都会人もいる。
- ◇ 丹波地域には改善しなければならない点もあるが、良いところを伸ばし、その魅力を発信し、そういう所なら行ってみたい、住んでみたいと思わせるような取組が必要。
- ◇ 兵庫県の多自然地域では、丹波地域が一番 I ターン者が多い。丹波の魅力情報をもっと拡散して、都会の若者においてよと、地域も支援しますよという呼びかけをしてほしい。



小西隆紀 兵庫県議会議員

- ◇ 発表を聞き、施策の周知がまだまだ足りないと感じた。新規就農支援なども色々とメニューがあるが、高校生など若者に知られていない。さらに周知が必要。
- ◇ 自分も 30 年前に篠山へ U ターンした。その当時、篠山の市街は閑散としており、こんな所においても駄目だという雰囲気だったが、現在では多くの観光客が訪れ、古民家への新規出店など賑わいが生まれている。魅力も仕事もある。
- ◇ 子ども県議会などで「働くところがない」という意見が出るが、子ども達の「働くところ」のイメージはテレビドラマで見るような都会のオフィス。確かにそういう場所は無いが、田んぼや畑、小さい商店などは「働くところ」ではないのだろうか？ 企業誘致に取り組んでも、もはや大企業が来るような時代ではない。



◇ しかし、商業も農業も、観光客をターゲットにビジネスとして立派に成立する。この地域は良い所なのだと言われ、住んでよかったという誇りを持ち、若い人に「働く場」として認識してもらうことが重要。

坂本哲也 兵庫県企画県民部ビジョン局長

◇ 県・市の施策の周知については、宿題として取り組みたい

◇ 若者の仕事について、今後 AI の発達で、工場や銀行の窓口など人が要らなくなる所が出てくるが、保育士や、マンツーマン・オーダーメイドの教育などは人間でなければできない。そういう仕事は、都会でなくてもできる仕事である。アップルやフェイスブックのように、新しい仕事生まれる可能性も大いにある。

◇ 農業では、ブランド化が重要。

◇ 高齢者も簡単にリタイアする時代ではない。持てる力を社会に活かしてもらいたい。

◇ 学校では、人工知能を使いこなすための教育が必要になる。コミュニケーション能力、人の心がわかる人材が求められる。

◇ 今後は丹波地域の良いところを伸ばし、仕事があり、人が訪れ、収入が得られる地域を目指して取り組んでいただきたい。



(7) 閉会あいさつ

福本豊 兵庫県丹波県民局長

